

ビジネスフレンズ

ららららららららら r ん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

勢いでつくった、以上。

目次

ゆかいなフレンズさん！

—
1

ゆかいなフレンズさん！

ジャパリパーク。それはサンドスターと呼ばれる七色に輝く石のちからでヒトのすがたに生まれ変わったどうぶつたちーフレンズーが仲よくすごしているとっても大きな動物園のこと！

フレンズさんたちは、空を飛ぶトリさんのフレンズさんに！動きがすばやいネコさんのフレンズさん！泳ぐの上手なイルカのフレンズさん！色々な特技を持ったフレンズさんがいるんだ！

でも、中には変わった特技を持ったフレンズさんもいるんだ！ヒトの姿になったことで、できることが増えたんだね！

あつ！ほら、ステージのほうを見てごらん！可愛らしいペンギンのフレンズさんがいるよ！

「みんな〜！こんにちは〜！」

「「「こんにちはあああああああああああああ！」「」」

みんなペンギンさんに夢中だね！

「とても元気なへんじありがとう！わたしの名前はジャイアントペンギン！みんなは聞

「CDは保存用、鑑賞、布教用、それぞれの予備3枚! 6枚買うからあああああああ
あああああ!!!」

「また来るよおおおおおおおおお!」

「くあwせdrftgyふじこーp;@:」

ステージは大成功! 中にはちよつとフィーバーしすぎちゃった子もいるけど! とにかく、みんな大喜びだね!

おや? さっきのペンギンのフレンズさんがどつかに行くようだね! 出番が終わったから自分のなわばりに帰るのかな? ついていってみよう!

フレンズさんたちはそれぞれ自分が住むなわばりを持っていてるんだ! ある子は砂漠に、ある子は海の中に、またある子は木の上になわばりがあるんだ! このこのなわばりはどこだろう?

あれ? これは木でできた、たてものかな? 上と下のりようほうにいっぱいとびらが付いているよ? あ、ペンギンさんが上のかいへ上っていったよ! そして、階段から一番近いとびらのまえで止まった!

ガチャリ

「ああ、かったりいわマジで。こんなことになるなら焼酎飲みまくるんじゃないわ。ケツ!」

ジャイアントちゃん!?なんか様子がおかしいよ?さっきのラブリーなジャイアントちゃんはどこに行っちゃったの!?それに焼酎飲みすぎ!?そんなことしたら体に悪いよ!

「るせえなあ、猫かぶつて撫で声だして、てきとーうに歌つて踊りや、あいつらバカみてえに金落としてくれんだよ!おめえは引つ込んでろ!」

バチーン

うわあああああああああああああああ……

キラン

そう!ジャパリパークが超巨大動物園であり、フレンズたちが動物としての生活習慣を持つていたのは、とうの昔の話であああああアアる!!

その昔、ジャパリパーク本部はパークで働く大量の職員たちの生活を保証するため、超巨大都市の開発に着手したあああ!!!

その結果、住宅街はもちろん病院、学校、図書館、飲食店、デパートなどの各種施設がつくられ!交通機関も上下水道も整備されたのだ!

それとともに、漫画、アニメ、テレビ、スポーツ、ゲーム、グルメ、インターネットなどありとあらゆる娯楽や文化がジャパリパークに流入し、都市ーパークセントラルー周辺に住んでいたフレンズたちにも大きな影響を及ぼしたのであったあああ!

その影響は始めは小さなものであったが、やがてフレンズからフレンズへ文化は伝わっていき、ついにはパーク全土に広まるまでに至った!!

ジャパリパーク本部は、人間文化をフレンズたちに触れさせることの危険性を懸念していたが、時既に遅し! 結局彼らは、フレンズの幸せを一番に考え、フレンズへの情報解禁を行い、フレンズたちはますます人間化していったのだあああああああああああ!!!

そして現在、2XXX年。木造2階建てのアパートの一室に人間文化にすっかり染まってしまい、自堕落な生活を送っているフレンズがそこにいた!!!

「こんな服恥ずかしくして着てられねえよ!」

又ギ又ギポイッ!

ジャイアントペンギンは腰のあたりまで伸びた長い髪をポニーテールに結び、上は自分の鼻根の球団ビッグホーンズのTシャツ、下には子ども用パジャマに着替えた! そして、本来体の一部に等しい正装―毛皮―を、部屋の壁にイ! 投げ捨てたあああああア!!

「あー、やっぱりこつちのほうが落ち着くぜ… さつそく一杯やるとするか!」

トクトク… グビビイ!

「かあああああーッ! 仕事のあとの一杯は最高だあああ! 犯罪的すぎる! あ、今の時

間ならまだやってるかもしれない！」

テレビのリモコンを手に取りスイッチ・オン！

ピッ

「9回裏2アウト、ランナー3塁、ビッグホーンズの攻撃。打者は今シーズン54本の、4番ヘラジカ！さあ、今日もビッグフライを見せてくれるのか!?」

「おいおい、まじかよ…。ピッチャーはインドゾウか…。鼻を使った変則投法でえっぐいカーブ投げてくるんだよなあ…。頼んだぞ！」

「投げたア！カーブだ！あ、行ったああああああああああ!!!」

「よっしゃああああああああああああああああああああ!!!」

「いった、行った！これは間違いない！特大の場外ホームランだああああああああ!!!」

「ん、まったこれはタカだ！タカが飛んでいる!!」

「な、なんでや!?!」

「と、とったあああああああ!?!捕ってしまったあああああああ!だがしかし、今回のルールでは飛行は禁止だ!これは反則行為だあああああ!なんてことだあああああ!ヘラジカの55号特大ホームランは、スタンドに場外にも行かなかったあああああああああ!」

「なにしてくれとんねんワレ!ほんとに卑怯なやつだ!」

バアン！バアン！

「おーっと！ホーンズとアライサングズの乱闘が始まってしまったああああ!!これは大変なことになってしまいましたああああああ!」

「おう！やったれやったれ!」

ドン！ドン！ドン！

このようにジャイアントペンギンは一日の大半を！酒を飲みながら野球観戦をして過ごしているうう!」

しかし、彼女がこのような生活をしていられるのは何故か!?フレンズがこんな自堕落な生活をしていてもジャパリパーク関係者から何も言われないのは何故なのかあア!?

それは彼女が現在ジャパリパークの目玉、人気アイドルでPPP（ペパプ）の生みの親で！彼女自身もPPP同様に人気のマスコットアイドルだからでああアアアア!

パークの人間たちは彼女には頭が上がらず、万が一この傍若無人なフレンズを窘めようなどとしたら、アイドルやめちやおうかな?と脅しをかけられるのだああああ!!

そしてジャイアントペンギンはアイドルとしてステージに立ち報酬として、衣食住、何不自由なく暮らせるほどの高収入を得ているのである!

だがしかし!それでもこの鬼畜ペンギンは、その収入の大半をいつもパチンコやカジノですってしまい、怒りと悲しみに満ち溢れ、大量の酒で夜な夜な己を慰めるのだ!!!そ

の結果、現在彼女の所持金は35ジャパロコイン！

こうして彼女は嫌々ながらも先ほどステージに立ち、来月分の生活費を手に入れたのであったああああ!!

ピンポーン

「なんだよ……」

ドンドンドンドンッ！

「そんな叩くなつて分かるわ」

ガチャリ

「パイセン、地団駄が下の方に響いてうるさいんですけど……」

「おう、プリンセスじゃねーか！いいところに来た、他のやつも呼んで麻雀でもやらねえか？」

「はあ？そんなのやるわけじゃないですよ……まずルール自体知らないですし……」

「わたしが手取り足取り教えて、立派な玄人に育ててやるよ！」

「バイニン……？いえ、遠慮しておきます。とにかく、あまりうるさくしないでください
ね！」

「はいはい……」

バタンッ！

「あーつまんねーの…。なんかパチンコ行きたくなくなってきたなあ。でも来月分の給料はまだ振り込まれてねえし…。あつ、フルルのやつにでも借りるか、あいつちよろそうだし。」

ジャイアントペンギンは一升瓶の最後の一滴を飲み干し、部屋を出た。
こうして今日も彼女はスられに行くのであった…